

WHILL MAGAZINE

SPECIAL
休刊号 ISSUE



WHILL株式会社

〒230-0045 横浜市鶴見区末広町1-1-40 横浜市産学共同研究センター実験棟F区画

WHILLコンタクトデスク TEL: 0120-062-416 (IP電話の方: 050-3085-9840)

受付時間: 9:00~19:00 (平日)

HP: <https://whill.jp>



WHILL

WHILL MAGAZINE

SPECIAL
休刊号 ISSUE



WHILL



お客さまインタビュー

MASAMI TAKAHASHI

VOLUME. 38

高橋 雅美さん

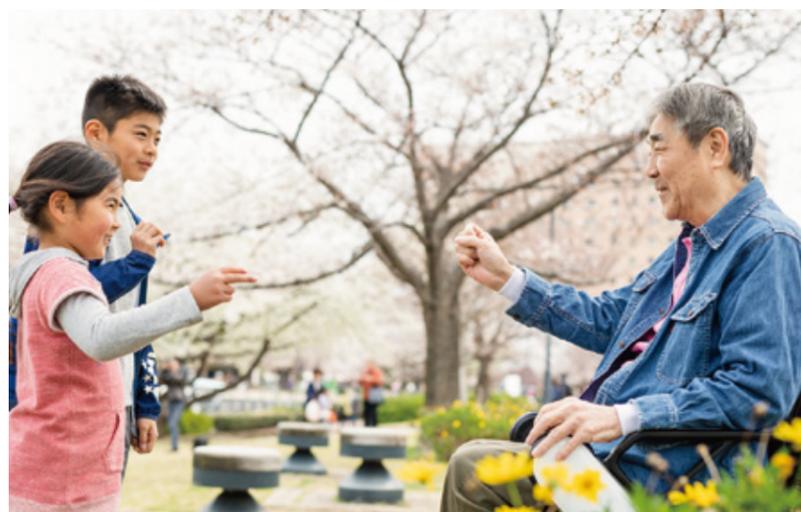
孫たちとおしゃれに楽しく

2018年3月からWHILL Model Cを
介護保険レンタルで利用されている高橋様。
5年前に大動脈解離で倒れ、両脚に麻痺が残りました。
小学1年生と小学5年生のお孫さんとの
お出かけにWHILLを利用されています。

「新しいもの好き」の心がくすぐられました。

中学生の頃からずっとラジコンが好きで、大会の日本記録を持っているほど。ラジコンの機体は日々進化していくので、常に新しい機種情報をキャッチしていました。20代～30代の頃は婦人向けのブティックの店長をしており、当時はまだ珍しかったホテル内のアーケード街に出店していました。いくつになっても最新のものを追い求めていきたい気持ちがあり、WHILLについても「新しいもの好き」の心がくすぐられたのだと思います。

撮影協力



孫と遊びに出かけられるようになりました。

(小学5年生の)上の孫とは2人でスカイツリーやプール、食事などによく出かけていましたが、病気で倒れてからはあまり行けなくなっていました。

入院中からのリハビリのおかげで、手動車椅子を漕ぐことはでき、ウィリー(キャスター上げ)もお手の物。退院時は手動車椅子で生活していけるものと思いました。しかし、帰宅してみると自宅の周りは坂道が多く、実際には最寄駅にたどり着くのもやっとでした。

WHILLが来てからは、苦勞していた坂道や段差も楽に乗り越えられるようになり、行動範囲が広がりました。また、元気に走り回る孫たちとも、同じペースで行動できます。

外出は驚きと発見の連続です。

以前は知らなかったのですが、私が住む横浜には、車椅子でもそのまま乗れるUDタクシーの専用乗り場や、今回の撮影場所となった観覧車など、便利な場所がたくさんあるんですね。「こんな場所にも行けるのか!」という驚きと発見を、ぜひ周りのみなさんにも知っていただきたいと思い、SNSにアップしています。観覧車も最初は孫と妻だけで乗って、自分は下で待っていたようと思っていたのですが、車椅子のまま乗れるゴンドラがあると聞き、驚きました。みんなで乗ることができ、孫たちも本当に喜んでいました。こういう場所がどんどん増えるといいですね。

今度は孫たちとディズニーランドに行きたいと考えています。



中村幹さん

「左手が動くんだから OKだろ」 2度の大病。 それでも訓練士でありたい。

警察犬の訓練士として、
数多くのチャンピオン犬を輩出されてきた中村様。
胃がん手術、脳内出血と2度の大病に見舞われ、
17年前から車椅子生活に。
2019年からWHILL Model Cを介護保険レンタルで利用され、
現在も犬の訓練を続けられています。

競技会に明け暮れた日々。

1951年に警察犬訓練所の家庭に生まれ、15歳の頃には
訓練士として家業に従事していました。その後、25年にわたり
日本警察犬協会主催の日本訓練チャンピオン競技会に熱
中し、文字通り寝る間も惜しみ訓練に明け暮れていました。
無理もたたってか1999年に胃ガン発覚、2001年には脳内
出血に見舞われました。



中村様との訓練を経て、セラピードッグとして活躍する「マリノ」
※乗車中の犬の散歩などは、十分にお気をつけください。

2度の大病。車椅子の訓練士としての覚悟。

会話も歩行も困難な状態から、リハビリに(ときにはエアロ
バイクまでも活用して)取り組んだおかげで、杖を使って歩
けるまでに回復しました。そうすると俄然、訓練士として仕
事をしたいと身体が反応するようになりました。「車椅子な
んかに乗って訓練ができるの?」と心配の声もありましたが、
いちいち屈まなくてもいいので、犬とコミュニケーションが
取りやすいし、何より指示を出す左手が使えるんだから
OKだろと思えました。そうして退院3日後には、訓練士と
しての生活が再スタートしました。



WHILLは車椅子のイメージを払拭している。

WHILLを初めて紹介された時、海外の高級車のような
印象を受けました。車椅子のイメージを払拭したデザ
インは、自身の障害を障害と感じさせなくしてくれます。
特に前輪には良い機能が凝縮され、オフロード用の最た
るもので丈夫だろうと感じました。というのも、以前使
用していた電動車椅子は前輪の小さなキャスターが半年
に一度は壊れてしまい、頭を悩ませていました。犬の訓練
での激しい動きと機敏な動きの両方で、キャスターを酷
使していたのだと思います。WHILLを使用して数ヶ月経
ちますが、故障の兆しはありません。



自身を支えてくれた犬たちに、もっと活躍の場を。

「いま、自分ができるとは何か」を探し続け、セラピード
ッグの育成という道にたどり着きました。自分自身、入院中
に見舞いに来てくれた愛犬家の方々や犬たちから元気づけ
られました。犬の癒しを必要としている人は多いはずで
す。セラピードッグの活躍の場を広げていくことに、これか
ら情熱を注いでいきます。

書籍紹介

車椅子の犬訓練士ものがたり
ーリードは心の伝達線
中村 幹





WHILL Magazineを
ご愛読いただきまして、
誠にありがとうございました。

2016年3月の創刊以来、ユーザー様のお声を中心に様々な情報を発信してまいりましたWHILL Magazineですが、今回の発刊をもって休刊とさせていただきますことを、お知らせいたします。

約3年間、43名のユーザー様をご紹介してまいりました。読者の皆様、ユーザーの皆様、配布にご協力いただきました代理店の皆様には、多大なご支援をいただき、誠にありがとうございました。

なお、今後につきましては、ホームページ、Facebook、Twitter、Instagramなどで、ユーザー様のお声やその他の情報を発信してまいります。

 **ホームページ**
<https://whill.jp>

 **Facebookで検索**
<https://www.facebook.com/WHILLJapan>

 **Twitterで検索**
<https://twitter.com/WHILLJapan>

 **Instagramで検索**
https://www.instagram.com/whill_japan/

WHILL MagazineのバックナンバーはWebサイトでご覧いただけます。
<https://whill.jp/whill-magazine>

